

## 同一株で複数年栽培できる植替え不要な省力品種 ハイブリッドリモニューム ‘シンジーシルバー’ の 栽培特性と電照による開花促進

### 1. はじめに

和歌山県が生産量日本一のスターチス・シヌアータは日高地方を中心に栽培されています。平成20年の燃油高騰により夜間に加温しない無加温栽培が中心となりました。他の品目より労力がかからないうえに燃料費が不要となったことから、栽培面積は平成15年に50haでしたが令和2年には75haまで増加しました。これに伴い出荷量は増加し平均単価も低下しています。加えて農家の高齢化も進んでおり省力的な品目への要望も高まっています。そのため、平成30年からスターチス・シヌアータと同様に無加温栽培が可能で省力的な品目を探してきました。その中から見つけたハイブリッドリモニューム ‘シンジーシルバー’ (写真1) は花色が人気の薄ピンク色で無加温栽培が可能です。宿根性と似た葉型をしていたので宿根性の可能性を考え、株をそのまま栽培した結果、同じ株で4年間も収穫が可能でした。

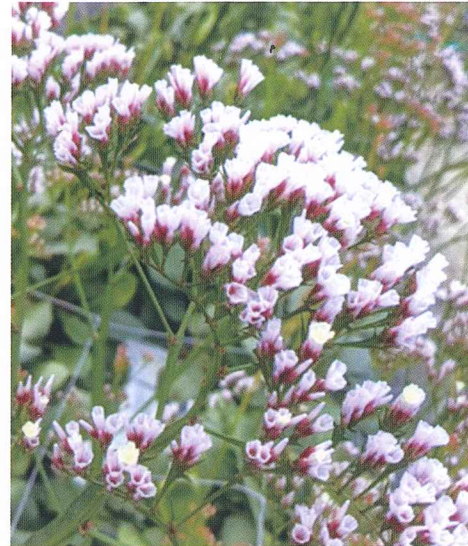


写真1 ‘シンジーシルバー’

そこで、今回は ‘シンジーシルバー’ の同一株で複数年そのまま栽培する据置栽培時の栽培特性と電照による開花促進技術について紹介します。

### 2. 試験方法

ハイブリッドリモニューム ‘シンジーシルバー’ は、乾燥や高温などにも強い宿根性リモニューム・ペレジーとスターチス・シヌアータの交雑品種でニュージーランドの会社が育成しました。日本では株式会社ムラカミシードから販売されています。

間口7.2m、奥行16mの鉄骨ビニルハウスにバーク堆肥960リットル、ピートモス680リットルとN7kg/10aになるようN-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=10-10-10の固形小粒肥料を散布し、全面耕耘した後、畝立て(4畝/ハウス)を行いました。うね幅100cmの畝にシルバーマルチを敷設し、ムラカミシードから購入した7.5cmポットのクーラー育苗苗を条間40cm、株間20cm、2条植えで1区8株の2反復とし、平成28年9月7日に定植しました。追肥は液肥で行いOK-F-1(N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=15-8-17、0.3-0.16-0.34kg/10a)を1ヶ月毎に施用しました。改植は行わず、植えた株をそのまま継続して栽培しました。

【試験1】複数年据置栽培時の収量：改植せずに同一株を4年間栽培した場合の収穫本数について調査しました。【試験2】複数年据置栽培の電照による開花促進：電照の有無と電照時間(日長延長17:00-23:00と暗期中断23:00-2:00)が開花時期、収穫本数、切り花品質に及ぼす影響を調査しました。

### 3. 試験結果

【試験1】 ‘シンジーシルバー’ の定植1年目は購入苗(クーラー育苗)のため3月から収穫本数が増加し5月までの収穫本数は34.7本でしたが、2年目以降は30.1本と1年目より少なくなりました。2年目の収穫本数の減少は初めての夏の暑さで株が弱ったためと思われました。夏の暑さで株が

弱り枯死することもありました。そこで、夏の暑さ対策として遮光カーテン(遮光率65%)を設置した結果、株の弱りは軽減し、3年目は41.8本、4年目は52本と株の成長にあわせて収穫本数は増加しました(表1)。3年収穫した株の生存率は87.5%でした。

【試験2】電照が開花に及ぼす影響を調べるため、平成30年度は17:00から23:00までの日長延長、令和元年度は23:00から1:00までの暗期中断を行いました。日長延長を行うと12月から2月まで1ヶ月で株当たり2本程度収穫できましたが、電照なしではほとんど収穫はありませんでした(図1)。一方、暗期中断による開花促進効果は特に認められませんでした。なお、令和元年度は、電照の有無に関係無く12月、1月に収穫できました。この年、ハウスに内張カーテンを設置したのでハウス内温度が前年より高く推移し、開花が促進されたと思われました(図2)。

電照の時間帯が切り花品質に及ぼす影響について調査した結果、日長延長では電照なしと同程度の切り花品質が確保されていましたが、暗期中断では、切り花長、切り花重、分枝数が減少し、切り花品質は低下しました(表2)。これらのことから、 ‘シンジーシルバー’ では、電照による日長延長は開花促進効果があり、切り花品質にも影響しないことがわかりました。加えて、ハウスの内張カーテンなどによる保温対策も冬季の開花促進に有効であることがわかりました。また、 ‘シンジーシルバー’ は直接雨に当たっても枯死せず順調に成長しますが、花房は湿度に弱く、高湿度になると黒ずむため商品価値が失われるので注意が必要です。

### 4. まとめ

‘シンジーシルバー’ は無加温ハウスに定植すると3年以上そのまま栽培できる省力品種で、日長延長で冬季の開花促進も可能です。また、株式会社大田花きのバイヤーによる投票でマーケティングトレンドを的確に捉えた品種が入賞する「フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2020」で新品种奨励賞を受賞しました。今後、商品性も高く省力的で無加温栽培も可能であることから、スターチス・シヌアータを補完する有望品種として普及に繋げていきたいと思えます。

(園芸部 花田 裕美)

表1 ハイブリッドリモニューム ‘シンジーシルバー’ の月別収穫本数(本/株)

栽培年数	12月	1月	2月	3月	4月	5月	計
1年目(H28-29)	0.8	0.9	3.1	3.9	15.2	10.8	34.7
2年目(H29-30)	6.0	0.0	3.1	1.3	13.1	6.6	30.1
3年目(H30-R1)	0.2	0.2	0.6	8.0	23.0	9.8	41.8
4年目(R1-R2)	5.8	4.6	0.0	9.0	15.0	17.6	52.0

定植日:H28年9月7日 うね幅100cm 条間40cm 株間20cm 2条植え  
複数年据置栽培(改植無し、同一株から連年収穫)、無加温ビニルハウス  
切り花本数:切り花長50cm以上、切り花重10g以上

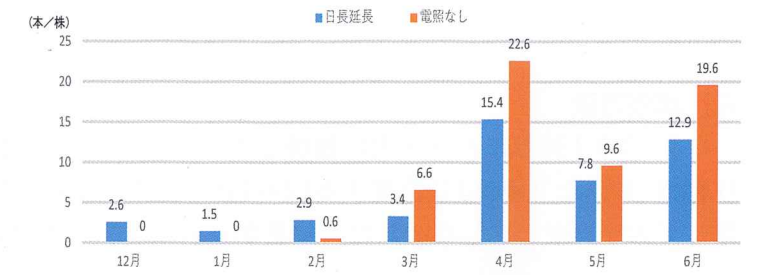


図1 日長延長が定植後3年株の収穫本数に及ぼす影響(本/株)

※電照時間17:00-23:00(明期16時間)白熱球60W使用  
電照期間:平成30年10月1日~31年4月30日 栽培概要は表1と同じ

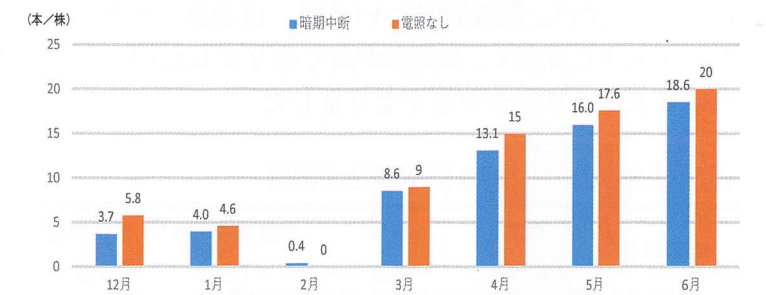


図2 暗期中断が定植後4年株の収穫本数に及ぼす影響(本/株)

※電照時間23:00-1:00(明期16時間)白熱球60W使用  
電照期間:令和元年10月1日~2年4月30日 栽培概要は表1と同じ

表2 電照時間帯が切り花品質におよぼす影響

年度	電照時間	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	分枝数 (本)	花房数 (個)	茎径 (mm)	翼長 (mm)
H30	17:00-23:00	67.0	26.2	10.4	5.0	4.3	7.7
	電照なし	68.7	25.6	10.7	4.9	4.3	8.7
R1	23:00-1:00	60.1	18.3	7.8	4.2	3.9	7.3
	電照なし	67.3	20.9	9.2	4.6	4.2	8.3